

[前](#) | [歴史](#) | [次](#)

95 : 1 : 05/01/28 23:57:11 ID:RKWfbGp9

カリカリ・・・カリカリ・・・カリカリ・・・

乾いた音をたてて、木の軸が回る。

『火おこし器』の音だ。

はじめは、うまく回らなかった軸だが、軸の先を細く削ったり

軸そのものに太い木を使い

やわらかく、しなやかな蔦をつかったりと、多数の改良を重ねた結果だ。

軸は回すたびに、勢いを増し、やがて、軸の先から白い煙が上がる。

木の焦げる独特なおいもする。

やがて、煙の隙間から、赤い光が見えるようになった。

その光にゆっくりと息を吹きかけると、光は大きくしっかりとしたものになる。

光の上に、小枝を乗せ、再び息を吹きかけると、そこには、炎が宿っていた。

ついに、彼らは、『火』を手に入れたのだ。

もし、文明の夜明けと言うのがあったとしたなら、この炎の色がその色だろう。

あらゆる獣を退け、あらゆる獣を滅ぼし、力を生み、力を育て

人類が地球上の生物の頂点である証

『火』

このときから、彼らは、獣におびえる弱者から、あらゆる獣に恐れられる強者になったのだ。

[前](#) | [歴史](#) | [次](#)